

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野 (1/6)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
和歌山県「高野・熊野」文化・地域振興総合特区(和歌山県)	4.7	4.7 <u>進捗度</u> ・地域通訳案内士登録総数 114% ・世界遺産を管理する市町や所有者が実施する維持管理事業及び保存修理事業に対する年間補助事業数 105% ・世界遺産関連地域における外国人宿泊客総数(延べ人数) 101% 等	4.3 <u>規制の特例等</u> ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 ・貸切バスの臨時営業区域を設定する特例措置 <u>財政支援等</u> ・歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業 <u>地域独自の取組</u> ・和歌山県世界遺産緊急保全対策事業 等	4.8	・中長期を見据えた着実な取組の成果により、総じて高い達成状況で推移しており、大変優れている。 ・SDGsに貢献する持続的な観光モデルとして、世界遺産の保全と活用とのバランスを引き続き注視したい。 ・英語以外の言語の通訳案内士の育成やプロモーション事業など多角的な取組の評価が高い。今後、コロナ禍等により外国人観光客の誘致が難しい環境となるが、長期的には現在の方角に間違いはなく、新たな工夫を取り入れて前進されることを期待。 ・課題は、通訳案内士の就業促進。産業経済の活性化と地域での新たな就労の場づくりという観点から、着地型旅行商品を開発し、販売促進のために市場流通サイト等に掲載することを考えていく必要がある。